

療養環境研究会シリーズⅡ 第6回オープンワークショップ議事録
「療養環境の快適性」

日時：2009年10月7日（水）18:00～20:30

場所：東邦大学医療センター大森病院（東京都大田区大森西 6-11-1）

司会進行：辻容子（東邦大学）

参加者：45名

1. 話題提供「看護師からみた快適性」

武田光代（東邦大学医療センター大森病院 看護師長）

東邦大学医療センター3号館の、病棟を中心とした療養環境の快適性について現状と課題をお話いただいた。

- ・窓の広さは開放感があり明るい一方で夏場は暑くなる。
- ・間接照明はまぶしさがなく目に優しいが、治療・処置時には暗い。
- ・病室以外にくつろぎのスペースがあることは患者・家族はもとよりスタッフにとっても精神的ゆとりがもてる。

2. 話題提供「療養環境の色彩・材料を考える ―患者とスタッフの快適性をもとめて―」

梅澤ひとみ（環境カリスト）

東邦大学医療センター3号館の事例をもとに、環境と色彩の選択についてお話いただいた。

- ・検査室や集中治療室など、機器の冷たさや患者が不安を感じるような場所では温かみのある暖色系（オレンジなど）のアクセントカラーを用いる。
- ・手術室では「緑の偉大な生命力」とそれを育む「大地」のイメージでグリーン系とベージュ系で構成、グリーンは「再生」を意味し、精神的安定、持久力を与える。
- ・病棟は「明るく」「シンプル」ななかにも「優しさ」を加え、アクセントカラーでリズムのある空間とする。光は代謝機能を活発にし細胞の維持再生など生命のリズムに影響を与える。オレンジは消化を助ける働きを持ち元気を与える色として、消化器・呼吸器・循環器系の病棟にふさわしい。
- ・地下通路など長い廊下は単なる通路としての機能ではなく、ギャラリーやリハビリの使用を目的に対応し、数か所に椅子を設置したり凸凹をつけ作品を飾ったりする。

3. 病院見学＜3号館外来および地下ギャラリー＞

東邦大学医療センター3号館の地下連絡通路、外来、病棟内の実際の様子を見学した。

4. グループディスカッションと発表

7～8人のグループに分かれて、療養環境の快適性について「利用する人（入院患者、外来患者、家族、スタッフ）」と「利用する場所（病室、廊下や通路、外来待合、診察室、スタッフステーション、休憩室など）」を予め設定されたテーマをもとにディスカッションを行い、発表して共有した。

（文責：渡部）